

在ペナン総領事・町田です。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

令和7年（2025年）10月が終わりました。

マレーシアは雨季に入ってまいりました。ペナン周辺でも、10月21日の週などは朝晩の冷え込みから体調を崩す現地の方も多かったようです。大雨が降ると色々なところにガタが出るものです。私の家でも停電を最近頻繁に経験します。11月は水害が最も多い時期でありますので、在留邦人・日本企業の皆様が大きな被害に遭わないことを祈念申し上げます。

10月はアジアにおける外交の季節でした。KLではASEAN関連首脳会議が開催され、また、韓国ではAPEC首脳会議が開催されました（その中で、高市新総理は外交デビューを果たされました）。私は過去、双方の国際会議とも薄い形で関わりましたが、何れもアジア太平洋地域の基幹的な「国際システム」であることは周知の通りです。先の戦争以降の世界では、シーパワーであるアメリカの「生命維持装置」の下、冷戦期を含めて、主要な政治的ブロックにある国家を含めて国が滅びることは基本的にありませんでした。これは国際機関・地域機関についても同様で、基本的に消滅することはありませんでした。

その為、APECもASEANもアメーバのように生々発展を続けていき、当初の想定を超えて加盟国・パートナー国が増えていきました。日本はその生存空間を確保するため、多くの国際的なフォーラムに参加してきた歴史があります。今回、クアラルンプールにおける日本・ASEAN首脳会議、日本・マレーシア首脳会談等、更に、東京での日米首脳会談において、その目的は十全に果されつつあるものと思っております。

マレーシアにおいては、サバ州議会選挙が開始しました。今後、来たるべき総選挙に向けて、次第に「政治の季節」に入っていきます。当館が管轄する北部6州のうち最も重要なペナン州の情勢を含め、政治の動向を把握すると共に、どのような結果になろうとも、日本の存在感を高める努力を続けていかなくてはならないと思います。

今後とも、我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。私と総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかりと働いていきたいと思っております。日本の安全・安心の確保の為に日夜働いておられる皆様を陰なが

ら常に応援しております。

以下、10月の総領事（館）の主な活動報告をいたします。なお、これら活動については別途総領事Xでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

ペナン外への出張等については、

10月1日、大阪から移動してきた東京日程において、左右田（そうだ）直規・東京外国語大学大学院教授を訪問・意見交換しました。左右田教授は、30年間に渡ってマレーシア／東南アジアを研究してきた方で、当初はマレーシア政治を研究し、最近まではマレーシア統治機構を研究されてきましたが、最近では、政治面での動きを注目されているということです。総領事館としては、日本・マレーシアの研究者との関係も構築していきます。3日、当館領事がKLでの「日本人会総会」に出席しました。他の都市の日本人コミュニティの経験・知見を参考にして、ペナンでの日本人社会支援に活かせると思います。7日、ペラ州イポー市に出張しました。同地では、サンウェイ・カレッジのイポー分校を訪問し、その教育内容をご説明いただき、また、学校施設を見学しました。この学校（2年制）は「Sunway City Ipoh」の中にあり、タンスリ・チア（Tan Sri Sir Dr. Jeffrey Cheah）が50年前に設立し発展させてきたサンウェイ・グループの学校部分に当たります。イポー分校にはビジネス、会計、アート・デザイン、観光（Hospitality）のコースがあり、卒業生の多くはKLのサンウェイ大学に進学するとのこと。この後、サンウェイ・シティにおけるテーマ・パークを訪問し、最後に、自然の洞窟や温泉を活用した「バンジャラン・ホットスプリング・リトリート」を拝見しました。学生交流を含む意見交換をするためにサンウェイ・カレッジを訪問したところが、イポー市における「サンウェイ・エコシステム」を視察することになったわけです。KLやジョホール偏重が見られるマレーシアにおいて、イポーという地方都市の地盤沈下・人材流出を防ぐ取り組みとして大変興味深いものと感じました。なお、「バンジャラン・ホットスプリング・リトリート」には、サンウェイ社が現地で建築中に洞窟の中で岩に彫られた「南無妙法蓮華經」の刻文を保存していました。この刻文は大正2年に彫られたもので、僧侶等の名前も明記されています。布教目的なのだと思いますが、どのような経緯でこの刻文が彫られたのでしょうか。前回「ペナン通信」追伸で書いたトUNK・アブドゥル・ラーマン初代首相

に先の戦争中に匿われていた日本人がいたのと同様に、マレーシア（マラヤ）における日本人の歩みにはまだまだ広く知られていないことがあるとの思いを新たにしました。10月8日、トUNK・アブドル・ラーマン大学（Universiti Tunku Abdul Rahman）のカンパー・キャンパスを訪問し、ユウ学長（Ir Professor Dato' Dr Ewe Hong Tat）等との間で意見交換しました。2018年以降総領事（館）からの訪問がなく久しぶりの交流復活ですが、2002年設立の勢いのある私立総合大学です。日本との大学の提携関係も盛んであり、また、外国語としての日本語学習も盛んであり、総領事館としても協力可能性がありそうです。同日は続いて、カンパーのトUNK・アブドル・ラーマン・ビジネステクノロジー大学（Tunku Abdul Rahman University of Management and Technology : TAR UTM）ペラ分校に訪問し、イム分校長（Dr Joanne Yim Sau Ching）等と意見交換しました。1969年にカレッジとしてMCA党の主導によって設立され、その後、ユニバーシティ・カレッジへの昇格を経て3年前に正式に大学昇格した新しい大学です。MCA関係者によって設立されたのはトUNK・アブドル・ラーマン大学（UTAR）と同様ですが、当初の大学化が頓挫した後に、UTARが先行したということです。全マレーシアで32,000名の学生を抱えるTAR UTMには、日本語クラスやキッチンを備えた観光学部もあり、総領事館としても協力の可能性がありそうです。



(←イポーの「南無妙法蓮華經」)



(↑UTAR訪問)

(出張ではないのですが、12日には、ペラ州クアラ・カンサーに旅行しました。クアラ・カンサーは Bandar diRaja、すなわちスルタンが住まれるロイヤル・シティということですね〔ペラの京都です〕。ここでは友人と共に、季節外れのドリアン、豊かな川の流れから得られたナマズ似の魚料理を頂くと共に、旧王宮博物館、クリス鍛冶の工房を訪問でき、マレーシア地方の多様性を見聞できた旅になりました。)

日帰り出張として、21日、ケダ州アロースターを初めて訪問し、サヌシ・ケダ州首席大臣に表敬しました。サヌシ首席大臣は歯に衣を着せない率直な発言で有名ですが、極めてフランクな人柄であり、1時間弱の間1対1でじっくりと意見交換をすることができました(詳細後述)。また、これも日帰り出張として、25日、ペラ州クアラカンサーの The Malay College Kuala Kangsar (MCKK) を訪問し、同校における

「International Language Carnival 2025」及び「Yosakoi & Wadaiko National Competition 2025」を拝見しました。MCKKは「マレーシアの学習院」と言える中等

学校であり、王族やアンワール・イブラヒム首相を始めとする有為の人材を輩出しています（詳細後述）。



（↑サヌシ・ケダ州首席大臣と）



（↑MCKKにて校長にご挨拶）

この他、当館各担当官も、管内外に必要な用務出張を行なっております。

政治・行政・経済面では、

10月9日、ペナン州警察長官 Dato' Azizee bin Ismail 氏に担当領事と共に表敬訪問しました。当方からは、約3000名の在留邦人及び120社を超える日本企業の安心・安全が最重要課題であると述べつつ、今後、担当領事を通じての連携強化を求めました。



(↑ペナン州警察長官等と共に)

11日、ペナンの伝統あるホテル、「Eastern & Oriental Hotel」(E & Oホテル)の140周年夕食会に出席しました。このホテルは英国植民地時代にアルメニア人ビジネスマンであるサーキーズ兄弟が建設したイースタン及びオリエンタル・ホテルが基になっており、在ペナン総領事館が例年天皇誕生日レセプションを開催するホテルでもあります(同兄弟は、シンガポールのラッフルズ・ホテルを建設したことで知られています)。13日、JMTi (Japan-Malaysia Technical Institute)にて、7ヶ国(ネパール、スリランカ、ブータン、バングラデシュ、カンボジア、東チモール) 15名に対して10月2日から13日までの間に実施されたサイバーセキュリティ関係の第三国研修の修了式に出席しました(人的資源省副次官等出席)。マレーシアにおける第三国研修は実は1983年から開始しており、マレーシアが早くから国際協力における日本との間での成熟したパートナーであることが分かります。14日、ペラ州タイピン市の日本企業を豊橋技術科学大学(TUT)関係者と訪問し、同企業の概要を改めて伺い、また、TUT側から大学4年次の企業インターンシップ等についての詳細な説明を行ないました。10年以上に及ぶTUTの取り組みが日本の大学教育、ひいては日本の国力を強化し、また、日本・マレーシア関係の強化に繋がれば幸いです。17日、ペナン州EXCO(都市計画等担当)のJason H'ng氏を訪問し、面談しました。9月の訪日時には、日本の環境教育などに感銘を受けたということです。



(↑ E & O ホテルで挨拶するチョウ首席大臣)      (↑ TUT の皆さんと共に)

21日のサヌシ・ケダ州首席大臣への表敬では、ケダ州の経済発展戦略についてお話を伺い、現地日本企業の皆様が直面しておられる問題について指摘し、今後、ケダ州事務方との間で議論を深めていくことを約しました。ケダ州には、クリム・ハイテク・パークを中心として十数社の日本企業が進出されています。今後、交通渋滞問題など、日本企業共通の問題について改善を求めていくつもりです。22日、ペナン州の環境政策の実施を推進する公益企業である「ペナン・グリーン・カOUNシル」 (Penang Green Council : PGC) を訪問しました。同所では、GMのジョセフィン・タンさん等からPGCの概要について説明を受け、10月31日の「Penang Green Summit 2025」への出席を約しました。また、排水再利用を含む水資源問題、住民への教育を含むゴミ捨て・廃棄物処理問題等について意見交換しました。23日、総領事館事務所において、ペナン、ペラ、ケダの各州で活動される(された)JICA海外協力隊(JOCV)7名の皆様のご訪問を受けました(うち、2名の方は離任者)。理数科教育、技術教育、障害児／障害者支援、理学療法、環境教育の分野で御活躍であり、それぞれの職場における苦労話や気づきの点などについてお話を伺いました。総領事館としては、60年続く「草の根」の協力が日本・マレーシア間の友好を今後とも下支えしていくことを祈りつつ、JOCVの皆様が安心・安全に活動できるよう側面支援して参ります。24日、ペナン州のDX、デジタル人材育成、更に、スタートアップ支援を実施している「デジタル・ペナン」(Digital Penang)を訪問し、CEOのウン・クワン・ミンさん等から活動概要について伺いました。「Penang 2030」の下、ペナン政府機関のDX、中小・零細企業・NGOのデジタル化支援、スタートアップ

支援を行なっている公益法人であり、その取り組みの目標と財政面等課題についてお話を伺いました。ペナンにおけるDXは我々にとって興味ある課題であるので、今後も注視していきます。同日、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州観光・創造経済担当大臣（EXCO）を訪問し、9月の訪日の成果等について聴取すると共に、今後の両国間の観光・文化振興について意見交換しました。26日、「Penang Legal Aid Centre」及び「The Penang Bar」の主催する「The 14th James Richardson Logan Memorial Lecture」に出席しました。「Access to Justice-then, now & next」と題する講演では、1970年代から開始された社会的弱者に対して法的保護を行なう試みが公的機関及び法律家協会のそれぞれによってなされている現状等についての説明がなされました。地方（少数民族等）のみならず、都会部の貧困層にも法律家の支援を与えることの必要性和困難性について説明がありました。領事事務との関係からも連携を模索していきたいと思えます。29日、「インベスト・ペナン」のダト・ルーCEOを訪問し、9月の訪日の感想及び今後のフォローアップについて意見交換しました。次回は、明年5月に東京にて改めて投資セミナーを開催することを目指しているとのこと。同日、日本銀行香港事務所の友田駐在員のご訪問を受けました。従来、年に一回程度のペナン出張であるということですが、本年は2回目です。当地政治経済事情について意見交換いたしました。今後とも、当地事情の把握に資する人脈の紹介をしていきたいと思えます。30日、当地FMM支部長のダト・リー及び支部関係者の訪問を受けました。ダト・リーとは大変親しくしており、今回は、2026年連邦予算案、ペナンの歴史及び今後の見通し等について詳しく意見交換をいたしました。31日、「Penang Green Summit 2025」の開会式に出席しました。これは、PGC関係者と知己になったことを受けての招待でした。ペナン州政府は2050年までの「ネット・ゼロ」を目標としており、また、現在南岸に造成中の「ペナン・シリコン・アイランド」では、再生エネルギー100%を実現する方針ということです。開会式での基調講演では、ザイリル・キール・ジョハリEXCO（インフラ等担当）から、ダムや貯水池における太陽電池パネルの設置などのアイデアが示されました。今回のサミットでは、昨年より参加者が約230名に倍増し、企業等による多くのブースが展開されていました。この機会に、大阪に所在する「公益財団法人・地球関係センター（GEC）」の皆様と知り合うことができました。UNEP支援団体であるGECは、マレーシア／ペナンとは20年来の連携関係を有しているとのこと。今後、ペナンでの環境重視姿勢の高まりを日本のチャンスにできないか模索し続けていきたいと思えます。



(↑「ペナン・グリーン・カウンシル」訪問)



(↑「デジタル・ペナン」訪問)

今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

日本人社会との関係では、

10月5日、ペナン日本人学校で開催された発表会「ペスタ・ブンガラヤ」に途中出席しました。児童・生徒の皆さんが澆刺と芝居や合唱をされている姿に感銘しました。新しい校舎で児童・生徒の皆さんが伸び伸びと学習に励まれることを期待いたします。日本人・学校運営委員会・日本人学校の皆様におかれては、校舎移転という大仕事を達成されたことに心からのお祝いを申し上げます。



(↑「ペスタ・ブンガラヤ」の様子。※日本人学校から提供を受けたものです。)

28日、ペナン日本人会の定例理事会に出席しました。チョウ・コン・ヨウ首席大臣の大阪・関西万博「ペナン・ウィーク」(9月22日～26日)参加に際して同行出張したこと等最近の総領事(館)の活動について説明すると共に、日本人会の魅力向上等の議論を拝聴しました。31日、「クランバレー三水会・ペナン三水会合同例会」に出席いたしました。両三水会の合同例会は6年振りということですが、今回再開した例会を皮切りに、現地政府への働き掛け等についての良い事例の共有などが進めば良いと考えております。私からは、この11ヶ月ペナンで勤務したことを通じての雑感を取りまとめてお話ししました。明るさもあり、曇りもあるペナン情勢を今後ともキチンと把握して、日本の国益増進のため、日本人会・三水会及びJACTIMと共に歩んでまいりたいと思います。

なお、当地日本人コミュニティの皆様には、警備担当官から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な提供に努めていきたいと存じます。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも精一杯励んでまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻お願いいたします。

文化交流・報道・学術交流関係では、

１０月３日、半島部ペナン州バト・カワンのPKTロジスティクス社の「マレーシアで一番長い日本庭園」を改めて訪問しました（７月３１日以来です）。これは、「Malaysian Book of Records」にこの日本庭園が認定されたことを踏まえたベルナマTVの同社CEOマイケル・ティオ（Dato' Seri [Dr.] Michael Tio）氏への取材に同行するというものでした。日本文化の重要な一部である日本庭園についてある程度アピールすることができたと思っています。４日、「Hin Bus Depot」における日本人芸術家（京都在住）の香月美菜（minakatsuki.org）さんの展示会オープニングに参加し、簡単な挨拶をいたしました。芸術のあり方について新鮮な議論ができました。「青の芸術家」香月さんはペナンに一ヶ月滞在されました。前述の通り、１０月７日及び８日には、サンウェイ・カレッジのイポー分校（７日）、トゥンク・アブドル・ラーマン大学のカンパー・キャンパス（８日）、トゥンク・アブドル・ラーマン・ビジネステクノロジー大学ペラ分校を訪問しました。１０日、マレーシア科学大学（USM）博物館（Muzium and Galeri Tuanku Fauziah）における浮世絵展（“Floating World of Ukiyo-e: A Journey Through Traditional Japanese Printmaking”）に出席し、開会の辞を述べました。この浮世絵展は、国際交流基金の支援を受けてUSM芸術学部が開催したものであり、葛飾北斎及び歌川広重の風景画（富嶽三十六景等）のレプリカを展示したものです。ささやかな展示会ではありますが、マレーシアにおいて日本（文化）に対して多彩な関心があることを示すものです。人は自分を愛する者を愛する。押し付けにならない双方向の文化交流を今後とも促進していきたいものです。１１日、ジョージタウン内の歴史あるタイ寺院「Wat Chaiya Mangalaram」におけるタイ国王からの下賜式典に出席しました。ペナン州やケダ州には数十のタイ寺院があり、当地タイ総領事（館）はこれら寺院との関係が重要ということですが、今回は国王陛下からの下賜ということでタイ本国外務省副次官、在マレーシア・タイ大使館の公使が出席するなど、大変格が高い式典でした。タイへの友好感情を示すために出席すると共に、共に出席した連邦議員・州議員等との関係を構築し、後に繋げることができました。なお、タイ国の王太后陛下がご薨去されたことを踏まえ、２８日、当地タイ総領事館において、弔問記帳を行ないました。



(↑ U S M 浮世絵展にて)



(↑ タイ寺院にて)

14日、立教大学の榎谷鋭教授（観光学部）との間で、11月14日にハンチャン・ユニバーシティ・カレッジ（Hanchiang University College of Technology）で開催される観光関係の国際会議及び付随しての観光関係でのネットワーキングについて意見交換しました。総領事（館）が企画するネットワーキング会合において、観光についての産官学協力の萌芽が芽生えれば幸いです。15日、ペナン州政府のシンクタンクである「ペナン・インスティテュート」のウィ・キー・ベン所長と当地情勢等について意見交換しました。なお、同研究所では、例年、文学イベントを実施しているところ、来年は日本からの参加者も改めて追求するようです。16日、マレーシア科学大学（U S M）社会科学部のシバムルガン教授から、当地の日本企業も関心を有しておられる「日本リベラル・スタディーズ」の進捗状況について聴取し、総領事館としての支援の仕方等について意見交換しました。17日、ハンチャン大学（Hanchiang University College of Communication）を訪問して、1991年設立・2017年UCに格上げとなった同大学の概要について説明を受けると共に、大学内の施設を拝見しました。メディア関係等に強い大学であり、日本語教育等についても関心が高いところ、今後、何らかの共同事業が検討できるかもしれません。



(↑ハンチャン・UCにて)

22日、PKTロジスティクス社北部地域責任者のジャスモン・リム氏が当館を訪問し、同社バトカワン施設内の「マレーシアで最も長い日本庭園」における日本文化行事の実施可能性について相談いたしました。日本企業とも関係の深い同社の取り組みに総領事館としても側面支援・助言をしていくことにしています。23日、MJS（馬日協会）が主催する「Akimatsuri 2025 : Fall in love with Japan」についてのウォン・ペナン州E X C O（観光・創造経済担当）による記者会見に同席しました。この「秋祭り」は、よさこいパレード（6月）、エコワールド日本文化祭（6月）、盆踊り（7月）に続く4回目の大型日本文化行事であり、ミス・コンテスト他の多彩な催し物が開催されます。キャノンを含むスポンサーの皆様に感謝いたします。25日に「International Language Carnival 2025」及び「Yosakoi & Wadaiko National Competition 2025」が開催されたペラ州クアラ・カンサーの「The Malay College Kuala Kangsar」（MCKK）は1905年設立。元々「東洋のイートン校」と言われていた全寮制の名門男子校であり、戦前は王族のための教育機関でしたが、戦後は一般家庭の子弟も受け入れることになりましたが、国家に貢献する有為なマレー人人材を育てることは変わっていません。王族、政財界の重要人物が同校の卒業生であり、ナタリブ・ペナン州州長（元ペラ州首席大臣）、アンワール・イブラヒム首相なども卒業生です。日本語は、中国語、アラビア語、フランス語に並ぶ「選択必修」科目であり、校舎外での言語ブースでも勢いがありました。また、よさこいについては2006年以来の歴史があります。今回の「Yosakoi & Wadaiko National Competition 2025」には各州からよさこいに9校、和太鼓に4校が参加していましたが、特によさこいはレベルが高いものがありました。同校の寄宿舎部分には、2006年に天皇皇后両陛下（現上皇上皇后陛下

が公式訪問された際の記念碑があります。日本語教育を含め、今後、皇室ともご関係の深いMCKKとの関係強化に努めたいと思っています。27日、共栄大学の川口浩・教育学部ラーニング・ラボ教職特命教授及び橋本隆生准教授並びに田中悦子ペナン日本人補習校事務局長との間で、当地での日本語教育振興等についてオンラインにて意見交換を行ないました。小学校教員養成に共栄大学におかれては、来年9月にジョホール・バル及びペナンで学生さん5名の初めての研修旅行を計画されているとのこと。総領事館としては、JAGAMなどとも連携しつつ側面的に協力します。30日、当地にて、当地州長及び首席大臣も出席したラテン・アメリカ映画祭が開催されたので、出席いたしました。本年の日本映画祭は9月に終了しましたが、来年の映画祭においても国際交流基金と連携して最大限の効果を出していきたいと思います。



(↑ 「秋祭り」記者会見にて →)





(↑MCKKに集まった各校の生徒達)



(↑両陛下MCKK行幸啓記念碑の前にて)

総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

11月以降も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものです。